

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	地域公共交通システム構築事業	会計名称	一般会計		担当課	経済雇用戦略課	
		予算科目	2 款 1 項 14 目	事業番号	514	所属長名	大谷 基文
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	平井 隆雄	
法令根拠等	伊予市総合計画、伊予市地域公共交通システム計画、道路運送法				実施期間	【開始】	平成 22 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり					【終了】	平成 37 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	中山・双海地域の人口減少地域における交通手段の確保及び本庁地区の交通空白地域の解消を図るために運行を行う。						
事業の対象	全市民			事業の目的	誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、人口減少地域及び交通空白地域に配慮した「分散型まちづくり」の推進、各地域の均衡ある発展を図るため、市民にとって便利で使いやすい公共交通システムを構築する。		
事業の内容 (整備内容)	市民生活における交通手段の確保と地域内交流の促進に伴う地域活性化を目指すため、中山・双海地域にデマンドタクシーを本庁地区にはコミュニティバスをそれぞれ導入し適正な運行管理を行う。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	昨年度からのコミュニティバスの運行開始に伴い、広報、HP等を活用した市民への周知を図る。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	27 年度実績	28 年度予定	9月末の実績	28 年度実績
直接事業費	110,757	59,384	121	1,296	0	60,651	デマンドタクシー利用者数	人	7609	8050	3885	7664
財源内訳												
国庫支出金		0	0	0	0	0	コミュニティバス利用者数	人	5582	8000	4354	8204
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債	95,000	54,500	0	0	0	54,000						
その他	3,389	4,000	121	0	0	3,843						
一般財源	12,368	884	0	1,296	0	2,808						
職員の人工(にんく)数	0.45	0.35				0.35	公共交通啓発チラシ	回	11	10	2	9
1人工当たりの人件費単価	8,042	8,086				8,086						
※ 直接事業費+人件費	114,376	62,214				63,481						
主な実施主体	奥道後交通株式会社、日光タクシー、内山タクシー、どるばタクシー		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		委託料							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	5年間の合計		
					60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	300,000		
成果指標	指標	デマンドタクシー及びコミュニティバスの利用者数			単位	人	区分年度	27 年度	28 年度	29 年度	目標 37 年度	
	指標設定の考え方	デマンドタクシー及びコミュニティバスを利用した人数を指標として設定することにより、当該事業の必要性・実効性を認識する。			⇒	目標	15000	15250	15500	17500		
	指標で表せない効果					実績	13191	15868				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		半年を経て、デマンドタクシー及びコミュニティバスの利用者数は概ね目標を達成している。コミュニティバスは利用者及び市民への周知を目的に車両デザインの改装を行う計画にしている。広報等を利用した周知に努め更なる利用者の向上に努めたい。									
事業	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点 事業の苦労した点・課題	コミュニティバスの車両の改装を行い、利用者からも「目立つようになった。」「遠くからも分りやすくなった」等の評価を得ることができた。車両改装に伴い大幅な利用者の増加は望めないが、広報等を通じて利用の周知に努め、地道に利用者の増加を図っていきたい。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の関与しない。民間や市民団体に委ねるべきである。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A					
		コスト効率	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	4							
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。	4							
	の	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) デマンドタクシーは、交通弱者対策として必要なものであり、事業継続は必要である。 コミュニティバスは、現在実証運行中であり、収集したデータ等を基に本格運行に向けた検討を行うため、事業継続する。	
				社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4					
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					
有効性			事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
効率性		手段の最適性	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B					
		コスト効率	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3							
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。	3							
評価		一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	所属長の課題認識	デマンドタクシーの利用については、利用者の多数が高齢者であるため、予約方法等について運行システム管理事業者と協議調整していく必要がある。 コミュニティバスについては、車両の外装をわかりやすいものに改装したことにより、市民への周知に効果があったと考えている。今後、利用者増を図るためにも広報やホームページで周知を図っていかなければならない。 本格運行へ向けて、データ等の整理を行い路線やダイヤの変更等について検討していかなければならない。		
				社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4					
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					
	有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B						
	コスト効率	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3								
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 総合計画の基本施策を推進するに当たり、特に重要な事業と判断したため。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弱者対策として必要な事業だと思うので、ぜひ頑張っていたいただけたらと思う。</li> <li>・バスの大きさを見直すなど特別な措置も含めて考えないといけない。苦労はあろうと思うがご尽力いただきたい。</li> <li>・利用されている人の声を一生懸命拾い、今のシステムに反映してもらえればと思う。</li> <li>・きめ細やかな対応で、お年寄りや交通弱者が多い地域に住んでいる者にはありがたい。細く長く続けていただきたい。</li> <li>・市街地循環型は利用状況や運行日数を勘案すると、毎日走らないといけないのかと正直思った。利用者も我慢すべきところは我慢し、工夫するところは工夫すべきである。行政として、ここは無理だということも今後は必要だと思う。</li> <li>・今後の運用をどうスピード感をもって解消していくかが課題となる。口達者な年寄りの声も丹念に拾い上げてほしい。</li> </ul>
------------	------	--

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 デマンドタクシーは横ばいであるが、コミュニティバスは財源もアップし、力を入れている。29年度に新しい計画を作成するためアンケート調査も実施している。どういった計画路線にするのか、きちっと把握した中で継続すること。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	